

編集後記

今年3号目の和文誌を無事に出版することができ、嬉しく思います。本号は、通常原著、症例報告に加えて、昨年の学術集会時に開催された第14回教育セミナーの特集で、毎年1回の大変充実した企画です。約1年前にセミナーとして講演された内容がまとめて発行されるもので、今回は6編の力のこもった総説が掲載され、ページ数も多く、とても教育的な内容が多い号となっています。

2017年に英文誌第1号が発刊され、この1年半に和文誌の役割も変化してきました。編集委員会の心配をよそに、原著、症例報告の英文誌への投稿は増え、今年すでに2号の英文誌を発刊することができました。日本のオリジナルな研究成果を国際的に発信する英文誌の発展とともに、和文誌は国内の教育に向けた役割がより大きくなっていると感じます。興味ある領域の最先端の知識をまとめた総説を日本語で読むことができるのは、とてもありがたいことです。また、原著になりにくい実地診療や多領域の現場の経験なども、和文誌に掲載されることで、多施設で共有することができるようになるとよいかもしれません。

編集委員会では、従来の和文誌年6回発行から、バランスを考えて、和文誌年4回、英文誌年2回（合計年6回）の発行と変更することを検討し、7月の理事会・評議員会・総会で承認を得ました。時代の流れとともに、より効率的に形を変えていく日本小児循環器雑誌（和文誌と英文誌）を引き続きどうぞよろしくお願いいたします。最後に、いつも査読で大変お世話になっております Associate Editor (AE) および査読者の先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

(山岸敬幸)